

「終わりよければ」いせの会 会報33

平成23年5月3日版

電話 05966・663・5226
ファクス 05966・663・5236

4月27日(水) 例会の記録

縁(えにし)の家 19時〜21時
出席者(8名)

男性4名、女性4名の出席でした。地域にホスピスを迎えるための市民向け勉強会の内容を話し合いました。

決まったこと(その後の調整も含めて)

①日時 9月10日(土)18時〜20時

②場所 観光文化会館 大会議室を予約

③講師 金田亜可根さん

岡崎で「医療といのちと市民を結び試み」を10年続けられている方です。その活動は、



市民としての創意工夫に満ちています。金田さんの経験から、街の中からの情報発信の実際を聴いて頂けると思います。プロフィールは、お名前かホスピス研究会OKAZAKIでネット検索閲覧を。準備会議は、5月11日の後で。市広報に掲載するためには、6月15日×切。

「エンディングノート」講習会の報告

- 4月13日は、11名の参加でした
- 介護とは何時終わるといふゴールが見えない問題です、と話題がスタート。
- 「誰に介護を頼みたいか」ではなくてまず「どこで介護を受けたいか」に関心をしぼるといいし、言いやすいはず
- その心は、「けど」と迷う部分はあっても、まず「したい」と本音で始めるなら、周囲も率直にサポートできるから
- 介護費用は年金額でなく手元金が基盤
- 年下の友人は貴重な存在です、なぜなら同年代では助け合いたくても同じ様な問題(体力低下)もあるから
- 富山方式(このゆびとーまれ)では、要介護高齢者、障害者(児)、乳幼児の預かり施設を、一体化した小規模多機能施設を柔軟に運営している好例
- 講師からのまとめに代えて「してほしいこと」
- 普段から相談できる相手を作っておく「しなくてもいいこと」
- 相談せずに、独りでガンバルこと
- 「してはいけないこと」
- 自分の未来を悲観したり、あきらめたりすること

講習会(原則として、第二水曜日 夜7時〜8時半) 縁の家にて 無料

主テーマ 講師(補佐役)

4月13日 「介護の始まり」 森(潮田) 上記のごとく終了

5月11日 「遺言の書き方」 浅沼(井戸坂) 間近ですがヨロシク!

6月 8日 「医療での意思伝達」辻村(野口)

7月13日 「今の世の葬儀」 美濃部(交渉中)

8月10日 (講座前半の振り返り)あるいは講演の準備会

9月14日 → 9月10日の講演会に振替える(別会場)

10月12日 後半(検討中) 全部で3回シリーズを検討中

11月 9日 後半(検討中)

12月14日 後半(検討中)

☆出席の初回にノート資料をお渡しします(その後も持参下さい)

お知り合いを、気楽にお誘い下さい。

5月11日、遠藤は参加できません。皆様よろしくお願ひします。